

事業No.	指標/事業名	事業担当部署名	質疑内容	■事業担当部署からの回答
KGI/KPI	市内就業率	企画財政課	地域別の就業率の状況はどうか？	<p>地域(旧4町)別の集計においては、学生を含めた数値しか把握できませんでしたが、参考に2箇年分お示しします。</p> <p>■R2年度の市内就業・通学率 園部町51.5%、八木町44.9%、日吉町38.0%、美山町51.9%</p> <p>■R3年度の市内就業・通学率 園部町46.3%、八木町52.8%、日吉町53.7%、美山町83.5%</p>
KGI/KPI	製造品出荷額	商工課	2019年以前と比してそれ以降の数字が大きく落ち込んでいる要因は？	日産・三菱系の自動車部品を製造する大手製造事業者(ジヤトコ)における生産量の減少等によるものと推測しています。
KGI/KPI	誘致企業地元雇用率	商工課	コロナ禍で全国的にはパートアルバイトの失業が増えたが、南丹市では誘致した企業の地元雇用率が伸びている。その正社員・パートアルバイトの内訳は？	誘致企業41社に対する調査の最新値(R4.4.1現在)によると、雇用総数は過去最大の3,067人となっており、そのうち、1,914人が正社員、795人がパートアルバイト、派遣社員が358人という内訳になっています。
KGI/KPI	転出/転入者数	市民課	南丹市への転入者はどの年代層が多いのか？	<p>■転入者 10歳未満94人、10歳代126人、20歳代473人、30歳代251人、40歳代106人、50歳代83人、60歳代55人、70歳代37人、80歳代20人、90歳代7人</p> <p>■転出者 10歳未満50人、10歳代65人、20歳代581人、30歳代196人、40歳代111人、50歳代68人、60歳代33人、70歳代35人、80歳代21人、90歳代9人、100歳代1人</p>
KGI/KPI	農家民宿開業者数	農業推進課	全国的には1棟貸しの宿や農家民泊等、比較的富裕層が来るようなところが盛り上がっている傾向があると聞いている。この数値にはそういうものも含まれるのか？(数値根拠)	<p>農家民宿数については、1日1組限定にされている宿は含まれていますが、家主不在型の1棟貸しをしている宿は農家民宿として計上されていません。コロナ禍により1日1組を限定としている宿は増えてきています。</p> <p>※規制緩和により家主不在型も農家民宿に含まれますが、京都府としては家主不在型農家民宿は進めておらず、農家民宿数に計上していないため</p>
KGI/KPI	農家民宿開業者数	観光交流室	全国的には1棟貸しの宿や農家民泊等、比較的富裕層が来るようなところが盛り上がっている傾向があると聞いている。この数値にはそういうものも含まれるのか？(具体的事例)	コロナの感染拡大が長期化する中、見知らぬ人との接触を避けたいという利用者ニーズの高まりから、南丹市内でもオーナーの趣味や個性を色濃く反映した一棟貸しの宿の開業が相次いでいます。
KGI/KPI	不妊治療支援件数	保健医療課	少ない印象。補助制度を知らない人が結構いるという実感があるので、どういった広報をしているのか知りたい。	通年において、ホームページでの広報、近隣地域の医療機関での案内をしており、お知らせ版、市の公式ラインにより、年度末に広報しています。
1-1	間伐材出材奨励事業	農山村振興課	成果アウトプットのところを見ると、平成30年度がピークで、そこから下降傾向にあり、令和3年度に少し回復している。その原因は？	木材価格の低迷(新型コロナも含む)、間伐材の利用減少(住宅建築等)などにより、搬出間伐面積の減少、それに伴う出材量も減少となった。ウッドショック(ロシアがウクライナへの侵攻等)により木材価格が上昇、海外より木材の輸入が減少となったことから国産材の利用が増えたことにより、少し回復傾向となっている。
1-1	間伐材出材奨励事業	農山村振興課	間伐材の活用について具体的にどういう取り組みをしているのか？	<p>ウッドショック(ロシアがウクライナへの侵攻等)により海外より木材の輸入が減少となったことから国産材の利用や切替が増えている。(公共施設等による木材の利用、住宅建築資材など)</p> <p>国および府において「木づかい運動」の取組により木材利用に向けたイベントや普及啓発活動が展開されています。</p>
1-1	間伐材出材奨励事業	農山村振興課	実際に間伐材を使いたい人たちに情報が全然来ないという声を聞かすが、繋がりがどうなっているのか？	間伐をする業者(森林組合や民間の林業事業体)が搬出木材の質により合板工場や木材市場等へ出荷となります。(業者に出荷先を委ねている。)間伐材を利用したいということであればお近くの森林組合、木材市場、製材工場等にお尋ねください。
1-2	特用林産振興事業	農山村振興課	加工や飲食店展開とあるが、その具体的な内容は？	朝倉山椒を使用して頂く実需者(販売先)の検討・選定は、市内の飲食店や市外の加工業者等を対象に事前アンケート実施して、実需者と見込める場合は、サンプル品(実山椒)を提供して品質等のアンケートを実施。(業務委託契約より園部町農業公社が実施)
1-3	サテライトオフィス誘致事業者等支援事業	商工課	具体的に、どのような事業者がサテライトオフィスを開設され、展開されたか？	令和3年度については、企画会社(園部・美山)や健康器具等の通販会社(八木)、農業関連会社(八木・美山)、ドローンを扱う会社(美山)、工芸品製造会社(日吉)など7社に展開をいただきました。
1-3	サテライトオフィス誘致事業者等支援事業	商工課	サテライトオフィス誘致だけではなく、在宅ワークでもできますという人向けの制度は検討しないのか？	<p>聞き取りによると南丹市内の事業所については製造業が多く、在宅ワークの成立が難しいのが実情となっています。</p> <p>市民の在宅ワークへの支援制度については、その対象の多くが南丹市外に勤務する市民となり、結果的に市外事業者への支援が主となるため、京都府が設置されている多様な働き方推進補助金などを活用いただくのが望ましいと考えています。</p>
1-4	商工振興助成事業(創業支援)	商工課	具体的な事例の紹介をお願いしたい	中小企業診断士の松野先生をお迎えし、4日間にわたり、創業セミナーを実施し、資金のお話やビジネスプラン、マーケティング理論など専門的知識を学んでいただきました。15名の受講をいただき、特定創業者としての証明書を交付させていただきました。セミナーでは最終日にそれぞれのビジネスプランをプレゼンいただくなど情報の共有を図っており、その場でもタイアップが見受けられます。
1-4	商工振興助成事業(創業支援)	商工課	良い取組だが、オリジナリティはあるのか？ 南丹の地域の人向けに南丹で起業していくというのに有効なものになっているのか？ 修了証を得た人がどのように活躍をされているのか？ 南丹に特化した創業の機会とかネットワークづくりになっているのか？	<p>国の創業支援等事業計画の認定を受けた南丹市の独自事業であり、市の実施する創業支援セミナーを受講し、特定創業者の認定を受ければ、政策金融公庫の融資の優遇措置や、登録免許税の軽減が受けられるなど起業家にとってのメリットは大きくなっています。修了された皆さんは、商工会指導員や専門家のさらなる指導や助言を受け、実際に起業へと進まれます。</p> <p>事業の内容については南丹市の自然や産物などを活用したものが多く、講師のアドバイスにも地域資源の活用や既存事業者との連携、商工会の有効活用などの内容を多く盛り込んでいただいています。</p>

事業No.	指標/事業名	事業担当部署名	質疑内容	■事業担当部署からの回答
1-4	商工振興助成事業(創業支援)	商工課	実際に創業支援してその後、どうなるのか？ 事業が定着していくにあたっての市の施策がどんなふうな位置づけでどういう効果を発揮しているのか？ (複数事業に絡んでくる質問になるが)	統計的には創業後1年後には約4割が廃業し、2年後には半数が廃業するといわれています。これらの多くは創業時の事業計画が現実離れた計画であるなど課題が多くみられると言われていています。こうしたことから創業セミナーでは、確実な事業計画の策定に向けた理論をしっかりと学んでいただきます。また受講後は、商工会指導員の伴走支援を受けながら、時には専門家を交え、確実な起業と事業運営をサポートします。
1-5	南丹市販路開拓支援事業	商工課	具体的に、どのような商談会に出展され、展開されたか、事例の紹介をお願いしたい。	販路開拓支援事業は大規模展示会への出展を支援するタイプと以前の国会のご意見を踏まえて起業者が比較的小規模な展示会に出展する際に活用できるタイプの2つに分かれています。 大規模展示会であれば、インテックス大阪での機械要素技術展や愛知スカイエキスポでの国際食品工業展などへの出展を支援しました。これらの展示会では新たな分野、また新たな地域での新規顧客を開拓されました。起業者のタイプでは、京都市内で開催された農業ビジネス商談会や、大阪高島屋の展示スペースなどを活用した商品展示により新規顧客の獲得やビジネスパートナーの獲得に取り組みされました。
1-5	南丹市販路開拓支援事業	商工課	コロナ禍でWEBでの展示会とか自社サイト作るとかそういう方向も増えているので。そういう取組も対象にできないか、何か考えていることはあるか？	コロナ禍においては、臨時交付金を活用して既存の販路開拓支援事業を販路開拓緊急支援事業として一部制度の拡充を図り、WEB展示会などの取り組みを支援しています。今後もメタバースによる展示会なども想定し、通常の販路開拓支援事業についても対象を拡充する方向で検討してまいりたいと思います。
1-6	南丹ブランド推進助成事業	商工課	具体的に、どのようなブランドテーマをもって、展開されたか、事例の紹介をお願いしたい。	南丹ブランド推進事業については、全国的に南丹市のブランド産品を流通させるためのECサイトの構築の補助のタイプと、ブランド定着のためのイベントを支援するタイプの2つがあります。 令和3年度については定着イベントとして、大嘗祭の米や野菜を中心とする南丹ブランド産品を京都縦貫自動車道パーキングエリアで販売する取り組みを支援しました。
1-7	ものづくりのまち推進事業	地域振興課	展示会、体験ワークショップの参加者からは、どのような評価があり、出展にとって、どのような成果があったか、具体の事例を紹介されたい。	コロナ禍により、南丹市工芸家協会では、展示会の開催方法を変更して、個展やグループによる展示の実施、協会ホームページやSNSを活用した工芸家との交流や情報発信など、工夫した取り組みを実施されました。ワークショップは少人数の参加でした。ホンモノの道具を使用してのものづくりができると、好評でした。
1-8	小規模企業支援事業	商工課	可能な範囲で、本事業を活用された事例を紹介されたい。	小規模企業支援事業については、その事業内容が利子補給制度となっております。令和3年度については銀行からの融資を受けられた事業者のうち18事業者が本制度を活用されました。
1-8	小規模企業支援事業	商工課	広報などはどのように行っておられるのか。	市の広報紙に掲載し、周知を行っています。
1-9	ものづくり産業雇用支援助成事業	商工課	助成事業により雇用された人が、次年度も継続的に雇用されているのかどうか。	当該助成金は、雇用開始から10月以上南丹市内に住所を有する者であることが必須条件となっており、一定の継続雇用を見込んだ制度としております。
1-10	商工振興助成事業(商店街活性化)	商工課	商店、来訪者双方について、どのような感想・意見をお持ちかを把握・分析されたい	歳末商戦事業における商店に対する事業実施後のアンケート調査では、「子供も含め、お客様が楽しんでいただけた。」「お客様との対話が増え、次回来店につながった。」等の声があり、概ね実施して良かったとの回答がありました。 来訪者の感想・意見の聴取は行っていなかったため、今後の取り組みにおいて把握し、事業の改善に努めたいと考えています。
2-1	空き家流動化対策事業	地域振興課	印刷製本が必要な客観的なデータがあればいただきたい。データがWEB上にあれば十分であると感じる。	定住促進とは、単に移住者のみを支援する施策ではなく、地域団体等と一体となって地域をよくしていくための一手法です。 ガイドブックの作成目的は、移住希望者のみならず空き家所有者・地域団体等も活用できる制度の情報発信により、空き家の流動化や地域の受入力も強化することです。 令和3年度の活用実績は、①移住セミナー等イベント(10回)での配布256部、②区長・移住ナビ・地域役員等への配布296部、③本庁・支所・関係機関等での配布410部であり、幅広い施策を掲載していることから紙媒体を希望されることが多いです。 WEBでもガイドブックデータ版のほか、なんくらサイトや市HPで市の概要から主要制度の手続きまで掲載していますが、特にイベント時や空き家所有者・地域向け等にはWEBのみでは不十分であり、紙媒体・WEBの双方を場面に応じて有効に使い分けが必要です。
2-1	空き家流動化対策事業	地域振興課	②の廃棄物処分費は、上限20万で大丈夫なのか。	個人資産である空き家の家財処分は本来所有者が行うべきものですが、所有者任せでは処分が進まず、空き家活用の障壁となっていたことから、平成29年度に本事業を創設し、所有者に代わって地域ぐるみで家財処分を行う地域団体を支援しています。 物件によって異なる処分量に対して一定の上限は必要であり、上限を超えた場合でも本来の所有者負担は軽減されていますが、これまでの実績では、地域団体が行う範囲としてはおおむね20万円程度で収まっています。
2-3	総合振興計画進行管理事業	企画財政課	アンケートによって、観光や移住定住に繋がるか？	アンケート実施自体は関係人口創出に繋がりませんが、その業務に、これまで南丹市と縁遠い市外在住の大学生が携わり、比較的長期(3ヵ月～1年)に渡り南丹市に足を運び、南丹市を知っていただけることに着目して地域創生に位置付けています。 過去には市職員になり南丹市に移住した事例もありますので、小規模ではありますが継続的にOB・OGを輩出できればと考えています。
2-4	シティプロモーション推進事業	秘書広報課	訴求したいターゲットに、どのような情報を発信するか、その効果の把握・分析をどのように行っているのか？	映画館のCM枠で劇場内のすべてのスクリーンで上映。映画館の選定にあたっては、住宅地の近くへの出店方針を掲げているイオンシネマを選定しており、京都府の近隣の府県で「南丹市へ一回行ってみようか」と思える範囲にある住宅密集地を選んでいきます。 令和3年度は茨木イオンを選んだ。映像の内容は、田舎ののんびりとした雰囲気を感じてもらえる映像を制作。上映終了後には、上映期間中の動員数を報告いただいていたおり、上映中には、観客が感想を述べる様子も見受けられました。

事業No.	指標/事業名	事業担当部署名	質疑内容	■事業担当部署からの回答
2-4	シティプロモーション推進事業	秘書広報課	田舎暮らしを魅力的に感じる世代を意識した映画上映であったか。	映像の内容は、田舎ののんびりとほのぼのとした雰囲気を感じてもらい、同時に子育てをテーマに制作しています。30代、40代の子育て世代はもとより、子どもから高齢の方まで幅広い層に観ていただけるよう上映中の全作品の上映前に流しておりました。
2-5	山陰本線南丹市広告宣伝事業	地域振興課	これらの広告により、何か変化があったのか(問い合わせなどはあったのか)	京都駅や大阪駅でのデジタル広告、首都圏の電車内にポスターを掲出し南丹市のPRに努めているもので、車内ポスターを見た方からふるさと納税に関する問い合わせがあり、反響があったと言えます。移住相談にも繋がっているものと考えます。
2-7	観光宣伝事業(その他宣伝事業)	観光交流室	ライフレイルは非常に良いコンテンツだが、100件くらいしか見てもらっていない。閲覧数を増やす対策を何か考えているか?	公開して以降1,600件程度のアクセスがあります。今後各種イベント時に南丹市のPRを実施する機会が増えてくるので、それらの機会を利用してQRコードを案内したり、映像を放映するなどして、人の目に触れる機会を増やします。またチラシやパンフレットにQRコードを掲載して、幅広く多くの人に見てもらえるように努めます。
2-7	観光宣伝事業(その他宣伝事業)	観光交流室	フォトコンテストの応募者は同じ方が多いのか、どの地域からが多いのか知りたい。	プリント応募は72%がピーターです。応募者の地域は6割が京都府内、そのうち4割が南丹市で、その他は大阪府>兵庫県>滋賀県>関東の順となっています。
2-8	観光宣伝事業(美山DMO補助)	観光交流室	美山DMOの活動に南丹市はどのようにからんでおられるか知りたい。	観光に関する専門的な知識を有し、地域の観光事業者や国内外の旅行会社と広い繋がりを持つ美山DMOに対し、活動に必要な事業補助金を交付することで事業支援するとともに、定例会議により美山DMOと南丹市で相互の事業についての把握を行っています。
2-9	観光協会事業	観光交流室	それぞれの観光協会の連携はどのようになっているか。	観光協会ならびにDMOの連携を密にするため、南丹市観光協会連絡会を組織し、定期的に会議を行うことで、取組に対する理解を深めるとともに、相互に協力しあえる関係づくりを行っています。
2-10	観光文化資源活用推進事業	観光交流室	映像制作などで広くたくさんの方にPR出来たと思う。今後の展開として、それら映像素材をどのように誘客に繋げていくのか知りたい。	映像素材はWEBで公開し、多くの方に見ていただき、南丹市へ来るきっかけとしていただければと思います。また映像をプロモーションの機会などに活用できればと考えています。
2-11	展示会事業	社会教育課	「南丹ファンを増やす」という基本目標であるが、展示会が誰に向けてのテーマか、南丹市外にはどのようにPRされているのか、市外からはどれくらいの来館があるのか知りたい。	展示会は、南丹市に関連する歴史・文化・芸術等の分野から周年等の時期に合わせてテーマを選定し、開催しています。事業の対象者については、郷土を知るといことで南丹市民が第一に挙げられますが、市の魅力を伝えるという面においても市外へアピールも重要と考えています。 広報については、市のお知らせ、広報用ポスター・チラシの紙媒体のほか、市の公式LINEや館の公式フェイスブックやツイッター等のSNSを活用しています。 市外からの来館者については、文化博物館秋季展期間中のアンケートから、約400人中250人が市外からの来館であることがわかっています。
2-13	山村留学事業	社会教育課	市の予算をかけなくても、都会に住んでいて田舎に興味があって、子どもに学ばせたい方は自分でお金をかけてでも来たいと思っていると思うが、良い手法はなかったのか?	山村留学は、小学生対象の山村での生活体験であり、地域住民や地域の子どもたちと交流を図ることで、地域の活性化や子どもの良い刺激となってきました。山村留学を通して、山村での生活をしたいと思われたご家庭は少ないながら移住をされています。様々な方向性を知井振興会、運営委員会とも協議を進めてきましたが、課題が多く解決策も見いだせなかったため、市の事業としての山村留学事業は25周年を区切りに終了を決定したところです。
4-1	集落活性化支援事業	地域振興課	各地域での具体的な活動内容、成果、課題などを事例紹介願いたい。 また、西村市長の2期目の柱である「地域が主体となった取組」へ、どのように繋げていくかについても、併せて教示願いたい。	集落支援事業補助金では、集落が将来どうなりたいのかを集落で協議し、3年間の事業計画等を策定し、翌年度から策定した計画を基に事業を実施されます。 事業内容としては、集落の歴史を学習したり、史跡や集落の環境整備などに取り組まれています。集落で事業を実施することで、集落内外の住民の交流が増加し、集落の活性化に繋がっています。また、集落支援事業の終了後も南丹市まちづくり活動交付金や京都府地域交響プロジェクト等を活用するなどして、継続して事業に取り組んでいただいています。 引き続き、限界・準限界集落の活性化につなげていくため事業を継続していきます。
4-5	中心市街地活性化事業	商工課	各地域での具体的な活動内容、ターゲット、成果、課題などを事例紹介願いたい。	◆園部町中心市街地の空き店舗概略調査を実施しました。 【対象：園部町宮町、上本町、本町、若松町、新町、美園町 空き店舗数23件】 同じ空き店舗物件であっても、無住の物件や住宅として使用されている物件があるため、それぞれの所有者等に空き店舗の利活用の意向を確認等を行い、今後のまちなか施策の基礎資料となるよう継続的に調査を進めたいと考えています。 ◆「町家再生」活動【新町エリア】 空き家だった「新屋」を活用し、日替わりで店舗を活用していただき、多くの人の交流を生んでいます。 また、こども食堂の開催も行われました。 ◆チャレンジショップの展開 毎週水曜日、新鮮な野菜市として「軒先市」を開催しました。 毎週金曜日、カイロプラクティックが営業されました。
4-5	中心市街地活性化事業	商工課	実際にまちなかでの賑わいがどのように変化しているのか、見えにくい。必要な事業とは思いますが、とりあえず毎年同じような事業を…となっていないか。費用対効果はどうか。	本事業は、南丹市園部町本町周辺地域(まちなか)に賑わいを創出することを目的に、まちなかの商店や起業を希望する方などの相談やニーズの掘り起こし、チャレンジショップの開設について業務委託を行っています。 ご指摘のとおり、賑わいの変化などの成果が見えにくい事業でありましたが、令和3年度においては、空き店舗状況の概要調査を実施しており、今後の空き店舗施策の実施に向けた整理を本事業を通じて進めているところです。

事業No.	指標/事業名	事業担当部署名	質疑内容	■事業担当部署からの回答
4-6	小学校跡施設利活用推進事業	総務課	各地域での具体的な活動内容、成果、課題、民間事業者との連携見直しなどを事例紹介願いたい。	<p>■神吉小学校跡施設 地域活性化や交流の拠点として使用しており、敷地内の環境整備(遊具撤去・整地)に活用しました。地域住民の有志による地域米の催しを開催されるなど、地域拠点としての幅広い活用ができていきました。コロナ禍により地域の交流行事があまりできていませんが、アフターコロナ、ウィズコロナに向けての土台づくりに取り組みました。</p> <p>■知井小学校跡施設 地域の主導で社会福祉施設の誘致を進めるとともに、アフターコロナ、ウィズコロナを見据えた地域活動の更なる充実を図るため、敷地内の環境整備(施設進入路の改修)に取り組みました。今後の具体的なイベントや行事を通して効果検証に取り組み、地域活動の活性化を図ることとしています。</p> <p>■鶴ヶ岡小学校跡施設 拠点施設としてのあり方、また避難所としてのあり方を考える中で地域住民目線でのバリアフリー化が必要と考え、施設改修(トイレ洋式化)に取り組みました。アフターコロナ、ウィズコロナに向けた地域住民の活動拠点として更なる充実に取り組みます。</p>
4-7	市民協働推進事業	地域振興課	当該事業を通じて、地域課題の解決と市民活動の活性化に、具体的にどのようにつながったのか、事例紹介願いたい。 また、西村市長の2期目の柱である地域が主体となった取組へ、どのようにつなげていくかについても、併せて教示願いたい。	<p>市民の視点で、市民自らが地域課題と考える課題について、解決に向けて市内で実施される事業に対して支援をします。 地域課題の解決に向けた取り組み組織は、目的型組織が大半を占め、一部地縁型組織も活動されています。地域資源を活用した、地域の魅力の発信や見守り活動、地域の賑わいを取り戻すための事業などを実施されました。また、今年度の反省点を踏まえ次年度に向けて取り組み方法を検討されたり、交付金事業が終了したのちの団体の活動計画も検討されるなど、市民が主体となった取り組みの継続につながっています。 引き続き、地域課題の解決に取り組む活動に対して、交付金事業を継続していきます。</p>
4-7	市民協働推進事業	地域振興課	学生チャレンジ枠の実績がない理由は？(利用がない＝やり方とか制度そのもの・運営に課題があるのでは) まちづくり活動支援交付金や学生チャレンジ枠について大学の方への打診をしているのか？(やや使いにくいと思う面がある)	<p>令和3年度については、残念ながら南丹市まちづくり活動交付金の学生チャレンジ枠の実績はありませんでした。コロナ禍で、大学等の授業がリモートになるなど学生が事業内容を検討できず、交付金事業の問い合わせや相談は少なく、また1件の申請がありましたが、最終的には事業実施が困難と判断され、辞退されました。 企画前の事前相談で学生に対して、地域活動の方法や補助金の留意点を伝える部分が不足していたことから、令和4年度から制度を見直し、まちづくりデザインセンターへの事前相談を前提に学生のしたい事と地域の元気づくりを結び付ける体制をとることとしました。 南丹市まちづくり活動交付金や学生チャレンジ枠の事業募集は、各区長等に募集要項の送付や南丹市のホームページ・ケーブルテレビ等での告知、募集要項を各支所等へ配架しています。また、南丹市と連携協定を締結している大学等へは、募集要項の送付や事務局にメール等で直接案内しています。</p>
4-8	なんたん中間支援センター運営事業	地域振興課	当該事業を通じて、地域課題の解決と市民活動の活性化、人材発掘・育成に、具体的にどのようにつながったのか、事例紹介願いたい。 また、西村市長の2期目の柱である地域が主体となった取組へ、どのようにつなげていくかについても、併せて教示願いたい。	<p>なんたん中間支援センターでは、市民協働によるまちづくりを推進するため、南丹市内の様々な情報を収集することにより、行政区や地域の各種団体などに補助金等の申請に係る相談、地域人材の紹介、活動を実施するうえでの困りごと相談などを対応いただいています。 引き続き、中間支援センターを運営し、行政区や各種団体等が活動していくうえで、相談やアドバイスのできる体制を継続していきます。</p>
4-8	なんたん中間支援センター運営事業	地域振興課	相談されたことがどれくらい先に繋がっているのかという数字が分からないので、相談されたらそれで終わりなのか、それが次に繋がっているのか？	<p>なんたん中間支援センターでは、行政区や地域の各種団体からの相談などから聞き取りしたことは、関係機関へ情報提供や報告をいただいています。また、相談内容は項目ごとに取りまとめいただき、実績報告書として提出いただいています。</p>
4-8	なんたん中間支援センター運営事業	地域振興課	実際に来館(相談)され、運営につながった件数はどれくらいあるのか。デザインセンターにはどのような相談が寄せられるのかが知りたい。	<p>デザインセンターに相談され、その後の事業や運営に繋がったかは、相談等をされた団体等からほとんど報告がないことから、確認できていません。 相談内容は、○組織運営・法人格、○企画・事業、○物品、○広報、○会計管理、○労務、○パソコン、○その他に分類し、報告をいただいています。 主な相談としては、「NPO法人の設立について」、「大学と学生が、地域に貢献したいがその方法が知りたい」、「物品の借用について」、「団体の会計の仕方」などです。</p>
4-9	大学等連携推進事業	地域振興課	コロナ禍のため十分に展開できなかったと思われるが、南丹市学生交流プロジェクトにおいて、どのようなテーマで、どのような議論が行われ、今後の活動にどのようにつながったのか、また課題が見えてきたのか、紹介願いたい。 併せて、学校提案型まちづくり交付金を活用して、どのような成果があったか、ご紹介願いたい。	<p>学生交流プロジェクトは、地域の方が市内にある大学等を訪問する機会が少ないことから、地域住民に市内の大学等を知ってもらう機会づくりと、そこで学ぶ学生との交流を目的に実施しています。本事業で地域とのつながりをもった学校では、自主的に地域と学校の交流事業が実施されることになりました。 南丹市学校提案型まちづくり活動交付金は、3校で事業に取組まれました。2校は、学校が地域とともに活動する事業を実施され、地域の少子高齢化・過疎化の現状や地域の課題について学校・学生が調査したり地域と意見交換会や教室を実施されました。また、地域からは、学生との交流にもつながることから事業の継続実施を望まれており、事業に取り組みされた学校では、本年度も引き続き事業に取り組んでいただいています。1校は、南丹市内の高校生が地域や行政職員について学習し、地域のまちづくりについて理解と関心を高める取り組みを実施されました。</p>

事業No.	指標/事業名	事業担当部署名	質疑内容	■事業担当部署からの回答
4-10	小学校跡施設管理費	地域振興課	各施設における取組、活動、成果、課題などについて、事例紹介願いたい	<p>地域活性化センター7施設は、地域の拠点施設として地元組織が指定管理者となり、主に地域住民に向けた事業を実施いただいています。また、地域で活用できない・しない部屋をテナントとして利用できることとしており、地理的条件もありますが、様々な事業者がテナントとして利用されています。</p> <p>令和6年度末で、地域活性化センターとしての活用が終了予定のため、令和7年度以降の施設の管理について、各指定管理者が検討されています。</p> <p>●各施設の状況</p> <p>【川辺】地域の防災講座や敬老会、地域行事の実施を通じて、地域住民の交流活動を実施。テナントとしてドローンの会社などが利用</p> <p>【西本梅】地域住民の交流や各種講座の実施。地域住民による工房、ランチルームを活用したレストランの開設</p> <p>【新庄】年間を通じて、地域住民向けの事業を実施。センター開設時から野菜の集荷場や陶芸、英語教室として利用</p> <p>【吉富】地域住民の交流の場としての利用。センター開設時からテナント利用を重点に広報活動を実施されたことから、活性化センター7施設の中で一番のテナント利用をされている施設</p> <p>【五ヶ荘】地域住民向けの健康教室は、施設開設時から続いている。木造校舎は、全室テナント利用</p> <p>【平屋】振興会と連携した地域住民向けの事業を実施。令和2年度からは、障がい者福祉施設が1階に入居されたことから複合施設として運営</p> <p>【大野】振興会事業として施設を活用。地域住民のサークル活動が主な利用</p>
4-10	小学校跡施設管理費	地域振興課	今後の方向性は？ 何か一覽で、地域がどのようにに実際思っているのか、どういう方向に進んで行こうとしているのか知りたい。	前述の回答および事業4-6の回答参照
4-11	アーティスト・イン・レジデンス事業	地域振興課	地域の古民家活用や、アーティストと地域との関係性構築など、レガシーとして継承発展されている事例があれば、紹介願いたい。	<p>令和3年度は、京都府のアーティスト・イン・レジデンス事業の実行委員会に南丹市として参画しました。</p> <p>令和3年度の事業終了後も地域住民とアーティストのつながりがあったことから、地域住民が京都府へ事業提案され市も連携して、本年度は令和3年度事業の後継事業となる『美術展覧会「NANTAN Remix 2022」』の実施が決定し、準備を進めています。</p> <p>●美術展覧会「NANTAN Remix 2022」 日時：令和4年10月10日～23日 午前11時～午後5時 場所：JR八木駅前商店街内空き店舗、八木酒造</p>
4-11	アーティスト・イン・レジデンス事業	地域振興課	どのように広報されたのか、参加者はどこから来られた方が多いのか知りたい。	<p>令和3年6月22日、京都府や事業に取り組む市町が同日に記者発表を行いました。</p> <p>南丹市では、市役所と各支所・関係機関にチラシの配架やポスターの掲示、会場周辺の八木町南地区管内の全戸と八木町内の小・中学校へチラシを配付しました。</p> <p>来場者は、府内をはじめ関西圏からの来場がありました。</p>
4-12	国定公園推進事業	環境課	利用者、イベント参加者等の声を把握されていれば、紹介願いたい。 また、地域や研究者と、これまでどのように連携してきたか、これまでの成果と課題等があれば、紹介願いたい。	※別添資料参照
4-13	森の京都推進事業	観光交流室	森の京都に南丹市だけではできない色々な調査をしていただいていると思うが、どんな調査をしていて南丹市にどう活かしているのか？	<p>観光動向調査、顧客マーケティング調査を実施しています。調査により新しい観光資源の発掘を実施。一例として各地域に御城印の作成を提案し、森の京都エリアの御城印巡りを新たなコンテンツとした。南丹市でも4か所の御城印がその支援を受けて、地元で作成されています。</p>
4-13	森の京都推進事業	観光交流室	市全体、他市とをつなぐ、観光拠点事業であり、今後も継続すべきと思うが、具体的にどのような効果が上がっているのか知りたい。	<p>森の京都エリア内の御城印開発では、山城ハイキングなど歴史遺産を生かした地域資源の発掘、賑わい創出に繋がりました。南丹市では八木城や穴人城、埴生城へ訪れる方が増えています。</p> <p>また、QRトレインなど南丹市だけでは取り組めない広域のプロモーションができることや、森の京都エリアでの農山村教育体験旅行など大人数の子ども達を広域で受け入れることができる強みもあります。</p>